

【平成 16 年度学会賞・奨励賞の受賞者】

[学会賞]

所 正文氏 国士舘大学政経学部教授

受賞対象研究: 所 正文著「働く者の生涯発達—働くことと生きること」(白桃書房, 2002 年)

Masabumi Tokoro “An Overconfidence Approach on Driving Attitude of Older Drivers”
交通心理学研究, 2002, 17(1), 58-62

その他の論文

受賞理由: 所氏は, 第 1 回日本応用心理学会奨励賞を受賞後今日まで, 高齢者を対象として大きく二つの研究テーマに取り組んでこられた。「働き手としての中高年の生き方」と「運転者としての中高年の安全運転のありかた」である。受賞対象となった業績は, これらのテーマを具体化したものである。著書「働く者の生涯発達—働くことと生きること」は, 超高齢時代を迎えるにあたって, いかにして人生の質を高めていくかを大きなテーマとし, 従来の研究のようにネガティブな面からのみ高齢者を捉えるのではなく, Positive Psychology の理念を出発点として「愛」「労働」「遊び」といった人間本来の生き方からアプローチしたところに特色がある。研究の方法は, 豊富な調査と徹底した事例研究にある。最終章では, 「働く者の生涯発達のための処方箋」を三つの仮説に対応して提案している。すなわち, その 1 は, ゼネラリストからスペシャリストへのすすめ, その 2 は, 「二足のわらじ型」人生の生き方である。これは高度に熟練した趣味を持つことと地域社会への貢献を意味する。その 3 は, 対話から派生する「他人への思いやり」である。これは, 考え方の視点の転換や緩やかな精神テンポを持つことのすすめである。これらの提案は, 安全運転の考え方にも通じるものである。論文「An Overconfidence Approach on Driving Attitude of Older Drivers」では, 高齢者の不安全行動を助長する問題として加齢に伴い強化される「自信過剰」が明らかとなった。安全運転確保のためには生涯発達のための処方箋として提案された特にその 3 の「他人への思いやり」の有効性が示唆され, さらに, 個人特性として対処することの必要性が提案された。所氏が取り組む二つのテーマが互いに関連するところに生涯発達のための研究の意義が存在すると考えられる。その他の論文は多数あるが, そのほとんどが高齢者を研究対象とし, 高齢者をポジティブに捉えながら交通社会の中で高齢者との共存をいかに図るかというテーマで調査・実験を実施しており, 高齢社会の問題解決に大きく貢献してきている。「自らに幸福感をもたらす生き方」は, 応用心理学にとっても重要なテーマであり, 氏のこの分野への貢献が期待される。

[奨励賞]

該当者なし